3/24 朝日

インボイスの導入は中止に

日俳連専務理事 俳優・声優 池水 通洋さん

10月からの導入が狙われている消費税のインボイス（適格請求書）制度をめぐって、日本俳優連合（日俳連、西田敏行理事長）は行政間の連携不足も指摘しながら、「組合員の生活と仕事を守る」と導入中止を求めています。専務理事で声優・俳優の池水通洋さんに、インボイスの問題点などを聞きました。（前田智也）

――この間、日俳連はインボイスの延期や停止などを求める声明を3度出しています。

私たちが取り組んだアンケートでは、俳優の88%が免税事業者である年収1000万円以下で、なかには100万円以下と答えた人もいました。個人によって差はありますが、インボイスによって収入の約1割が減収になります。俳優にとって、仕事を続けられるかどうかの判断にかかわる切実な問題であり、私たちは導入中止を求めます。

インボイスをめぐっては行政間の連携すら十分にできていません。日俳連が税務署と公正取引委員会（公取）それぞれの主張のはざまに立たされ、困惑していることを申し上げたい。

――具体的に、どのような問題が起きているのでしょうか。

日俳連は、組合員が出演した映像作品の二次使用料を全国各地の放送局などから徴収し、のべ人数で数万人に及ぶ出演者やその遺族に分配する作業をしています。インボイスにかかわって税務署から、分配対象者が課税・免税のどちらであるかをしっかり区別する必要があると言われました。

調べる人数が膨大なため、より確実に返事を頂くために「インボイスの登録番号を通知しない場合は、消費税分はお支払いできません」など具体的な表現で告知する必要があると考えました。すると公取から、「そのような告知は、独禁法の『優越的な地位の乱用』にあたる」として、排除命令を受ける可能性があると言われました。

これには納得がいきません。分配対象者との個別折衝は事実上、不可能です。インボイスの登録番号を必要としているのは国税庁です。公取としっかり協議してほしい。

――二次使用料の徴収・分配に支障が出ることは、日俳連としては看過できませんね。

私たちが徴収している二次使用料は、30分番組で着きは1件500円というごく少額のもので、年間で1億円ほどになります。この権利は俳優・俳優たちが結束してデモやストライキ、訴訟によって獲得したものです。

1人当たりで見れば大きな金額にはならないかもしれませんが、低収入の俳優たちの生活を支える大切な報酬であり、日俳連の使命だと思っています。

インボイス中止を求めてデモ行進する人たち＝2022年10月1日、東京都内

――インボイスをストップさせるために、さまざまな人が声をあげていますね。

多くの人が声をあげたことでインボイスの登録期限も9月末まで延期されました。日俳連としても、俳優たちに慌てて登録を促す必要はない旨を、日本芸能マネージメント事業者協会や日本声優事業社協議会にもお願いしました。

インボイスの延期や廃止を求めて、俳優・声優やアニメ関係者など多彩な立場の人が自主的にグループをつくって運動していることに、私自身も勇気をもらい発奮を感じています。日俳連のなかにはさまざまな考えを持つ人が集まっていますが、インボイス中止では一致しています。私たちとしても、できることは何でも協力したいと思っています。

――インボイスについては、多くの問題点が明らかになっています。

インボイスによって、大手個人会社などに発生する損失分は、一般家庭の電気料金値上げで補おうとしていることが国会で明らかになりました。こんな不公平はおかしい。国税庁のインボイス発行事業者公表サイトを通じて悪用で活動している人たちの本名が分かってしまう問題も、いまだに改善されていません。

エンタメ業界だけではありませんが、コロナ禍による客足減や仕事減の影響がいまだに回復していません。物価高騰も起っています。こうしたなかで、税負担を増やすインボイス導入は妥当な政策なのでしょうか。国会審議や統一地方選挙などで、こうした議論が活発に行われることを期待します。

いけみず・みちひろ　1943年生まれ。テレビアニメ「正義を愛する者　月光仮面」（月光仮面＝快十郎役）、「機動戦士バトレイバー」（太田功役）、「元祖天才バカボン」（ウナギイヌ役）、「キン肉マン（第2期）」（ロビンマスク役、キン肉マンスーパー・フェニックス役）など多数の作品に出演。洋画の吹き替えや、「クローズアップ現代」などのナレーションも。

収入減 仕事続けられない
作品使用料の分配に支障